

ふれあい通信

今月号は渡邊辰五郎記念館事業について少し述べたいと思います。

昔、城下町、宿場町として栄えた「長南宿」は、今、空家や空地が増え、衰退してきています。子ども頃の町中は、商店も多く賑わっていました。町の街並みを代表するこの地域に、かつての活気を取り戻すための手法を色々検討してみましたが、時間的、経済的な制約もあって中々難しい問題があります。

そこで住民の方々が集い憩える拠点をつくって人の流れを呼び戻したらどうかと色々と考えを張り巡らせました。中心部に未利用地があったことから、所有者のご協力を得て、そこに公園を備えた憩いの場を設けてはと考えたところです。公園は、育児中の親御さんとの対話の中で、「子ども達を遊ばせる公園がほしい」との要望に応えるもので、児童公園を考えています。カフェ・レストランを備えた住民の交流の場となる施設を考えていきたいと思っています。その設置予定地が東京家政大学の校租である渡邊辰五郎氏の生地であることから、この施設を「渡邊辰五郎記念館事業」と位置づけ、国の提唱する地方創生事業として取り組むこととした訳であります。辰五郎氏の功績については、何度かこの広報紙でも取り上げていますが、まだまだ知名度は低いようです。そんな記念館事業ですので、町民の皆様の中には、資料館をつくって町内外から観光客を呼び込もう

としているんじゃないかということで、不評であると思います。

私は、教育界の偉人で町の誇りでもある辰五郎氏ですが、資料を展示して人を呼び込もうなんて毛頭考えておりません。結果としてそうなってくれば良いのですが、あくまでも「長南宿」の活気と賑わいを取り戻すため、人の流れをつくることとあります。加えて、東京家政大学の学生と住民の皆様との交流の拠点とすることでもあります。28年度に渡邊辰五郎記念館事業の基本構想を策定しましたが、29年度はより基本的な基本計画を策定し、本事業を進めていくこととなります。

私は基本的には、将来の財政負担を招く箱物はつくりたくない方針ですが、拠点施設のない本町にとつて必要なものは町民の皆様のご理解をいただく中で検討してまいりたいと考えています。とは言っても公共施設の耐震化は別です。庁舎、公民館は大きな地震で倒壊してしまう危険性があるわけですから、これらの耐震化は進めていかねばならないと思っています。



長南町長
平野 貞夫